

磐城時報

日三廿
編輯兼發行 岡田弘成
印刷所 加納活版所
發行所 磐城時報社
一部金貳圓 一月金拾圓
廣告料一行十二字五十五錢
日刊(日曜祝祭日)週日休刊

小田氏と栗原氏 法廷で渡り合ふ

一千圓の損害請求 栗原社長自ら法廷に立つ

炭礦王小田吉治氏は平市田について門傳辯護士の意見町平電力株式會社の新舎屋を聴いた上法廷には自ら立が小田氏所有地の權益を犯つて抗辯し世間の注目を惹いて建築したといふので平電力社長栗原欣次郎氏に交渉したが埒があかず結局酒井辯護士を代理として一千圓の損害賠償の請求訴訟を平區に提起した。二十三日午前十時淺野判事係りで公判が開廷されたが、栗原氏は流石恩人小田氏に敬意を表したためか事件の全貌

海軍入團者 豫備教育

在郷軍人分會海軍部では三日入團する海軍兵のため十日入團する海軍兵のため二十三日午後三時から平市役所で豫備教育を行った。

木炭報國に邁進

平營林署の計劃

上小川村宇渡地内國有林居るにも拘らず生産一割増官行事務所では平營林署の意向に協力、さらに人夫監督指導の下に人夫達家族中の鹿股勝記君は、炭焼は合せて二百三十餘名が伐採から行進曲と題する左製炭、製材に従事して居るの様な唄を作詩、歌聲もほが、燃料國策ガソリン統制がらに愛國行進曲のふしの昨令全員「木炭報國」ので合唱しながら統後の作業申合はせをやり各作業場にに從事してゐる。
★歌 詞 鹿股勝記作
木炭報國と大書した幟
を立て日の丸手拭も勇まし
一うす暗がりに飛び起きて
應召者で手不足となつて
明けの明星光る頃

平市會 時刻變更

平市會は二十五日午前十時に開催と變更されたが附議事項は國營紹介所敷地無償貸付その他である。

青沼淡夫氏 高等官七等

平保健所長は青沼市長令息醫學士青沼淡夫氏に任命された事當時報導の如くであるが、高等官七等で待遇される事になった。

新妻君戦傷

町字新町上等兵新妻唯一郎君は六月三日〇〇の戦闘に於て負傷し目下〇〇の野戦病院にて手當中である旨二十一日通知があつた。

平ブリキ組合認可 理事長に田中宣治氏

平板金加工組合では組合員二十九名が一口の出資額二十圓二百口が纏つたので其筋に認可申請中であつたが十八日付知事から認可された、役員左の如くである。
△理事長 田中宣治
△副理事長 菊田萬吉
△理事 飯澤達次、新妻實、吉田留次、菅波與三
△監事 加藤元之助、矢野幸之助
△平署 巡查 渡邊君戦傷
平署巡查兩角部隊長渡邊武君(元高久駐在)は徐州附昭和十二年

募入

一金四千五百拾圓四錢	一金貳千九百壹圓四拾參錢
內 譯	學用品費
一金九百五拾圓五拾參錢	體育獎勵費
前年度繰越金	一金貳拾五圓 講演諸費
一金壹百貳圓八拾八錢	一金壹百拾七圓四拾錢
同 殘品價格	兒童圖書費
一金參千四百四拾圓六拾壹錢	一金壹百五拾圓拾八錢
會 費	雜 費
一金拾七圓貳錢預金利息	差引錢
歲 出	一金壹千壹百五拾圓九拾四錢
一金參千四百五拾圓拾錢	現金(次年度へ繰越)
內 譯	現金(次年度へ繰越)
一金壹百拾五圓九拾七錢	外に金貳拾七圓五拾錢
事務 費	殘品價格(以上)

勧業債券を見せせて 保證金を詐取

磐崎村で檢舉

平署では磐崎村地方で最近昌弘は其後平檢事局で取調勸業債券を賣り歩いてゐるべ中であつたが業務上横領中の處去る二十一日同村藤た。原農大井川キイ(三八)さん方で二十圓の勸業債券を見せこれに十圓で買へば八年後には一圓宛償還されると巧みに欺いて賣りつける事とし保證金二圓を詐取して立ち去つたので平署で檢舉し取調べた處北海道札幌市日本證券會社社外委員若松市柳町生れ三原近(三二)と言ひ同様手段で會社の規約を破り保證金を詐取してゐた事を自白した。

保護者會

平第一校では二十三日兒童保護者會並に父兄會を催したが七百餘名參集盛會であつた、午前九時半迄授業の實地參觀、十時から學藝會があつて保護者會總會に移り會長阿部政右工門氏、篠山校長の挨拶あり、決算を承認したが決算は左の如武君(元高久駐在)は徐州附昭和十二年

星軍曹の 遺骨凱旋

好間村出身星軍曹正富君は既報の如く戦死したが遺骨は二十三日午後二時五十分平着で凱旋したが金成村長以下多數の出迎えがあつた

吉田君戦傷

長橋町出身飯島部隊吉田儀雄君は徐州附近戦闘で戦傷を負つた旨通知があつた。

第四校田植

平第四小學校では二十日同校神饌田の田植を執行した。

支那軍を 膺懲絶滅

小生北支に渡りて以來頗る壯健益々元氣にて幾度か砲煙彈雨の中を馳驅して敵の破壊せる鐵道の補修々理並びに橋梁の架設等或時は戦ひ或時は列車輸送の任に停車場勤務に果てなき北支の曠野を前進に前進轉戦を重ねる事二百七十有餘日、此植田町には余りに時代物視されるに至り更に最近町民間には等しく急速なる改築を要望するに至つた、同驛には明治三十年二月二十五日、御後援と堅き統後の護り社當時の建物だけに相當なる所に御座候

卓球戦に出場

東北六縣卓球選手權大會は二十六日仙臺市に開かれるが、平市から左のチーム出場する。
信澤要(營林署)多田傳二(警中)根本芳夫(平第三)佐藤一(市役所) 怪しげな
株屋の身元
平市白銀町福住旅館に止宿中の自稱株式買賣業吉村榮造(三八)の住所が山梨縣甲府市紅梅町或ひは東京市本郷區菊坂町とか判然してゐないのに平署で不審を抱き二十二日引致して取調べては不正事件が潜んでゐるらし。

吸入用酸素

モノサシ
ハカリ
マカス

体温器
寒暖計

回秤ノ取緒・鍍糸・修覆致シマス
回寫眞機
材料一式

關内藥局

電話四〇番

特賣 大陳列の中形

凡ゆる本年の中形を取揃へて御座います

新發賣 生榨帶 宣傳大賣出し
干草にて織つた名古屋帯・輕裝縮め心地百%

三井吳服店 電話 28284
平市

和洋銅鐵金物問屋

久金屋商店

諸橋久太郎
電話九番九九番

デンキ・タイヤ部
電話六三二番

昭和タクシー

電話 三四四三番
三四〇番

平 驛 前

イワキサロン

男給の店

食 事
喫 茶
酒 場

町田・平
(二五三電)

材料の精撰と 斷然追隨を許さぬ
味の自慢で

藤寅のアイスキャンデー

平市一四丁目
電話一四二番

藤 寅

吉田眼科

△看護婦數名入用
平市紺屋町(電話六八番)

魚をすから

ヒノマル凍魚

新鮮な冷凍具焼あります

強力電氣應用
神経痛に特效

鯛 マナ鱈 ノカサギ
エビ 甘鯛 立貝
白魚 カナ頭 貝焼

日本産手特約(電話三三三六番)
卸青平製氷會社
代理店 伊豆屋
四日五二八番

父千葉彦治儀豫而病氣ノ處藥石其ノ効無本日午前一時死去致候ニ付此段謹告仕候
追而二十三日茶屋ニ附シ告別式二十四日午後一時ヨリ二時マデ平市長橋町性源寺ニ於テ執行可仕候
尙時局花輪、放鳥等ハ堅ク御辭退申上候
昭和十三年六月二十二日
平市宇極樋小路一番地

長 男
親戚總代
友人總代

栗野直彦
千葉鶴治
大原忠之
鈴木辰三
山門傳清
田傳太郎

多田井商店

質物一般 債券 賣買 金融

平市大工町
電話 五九一
振替仙台一五三九

釜めし

うな井 親子
茶めし

外一品御料理ハ
安クテオイシイ

四倉仲町幸町通り
大漁亭
電話五十一番

仙臺藩郷友會

當會長辯護士千葉彦治殿本日午前一時死去セラレ候ニ付此段謹告仕候